

*Present for You* —

## 2015 年度 新収蔵作品展

わたしからあなたへ／みんなから未来へ

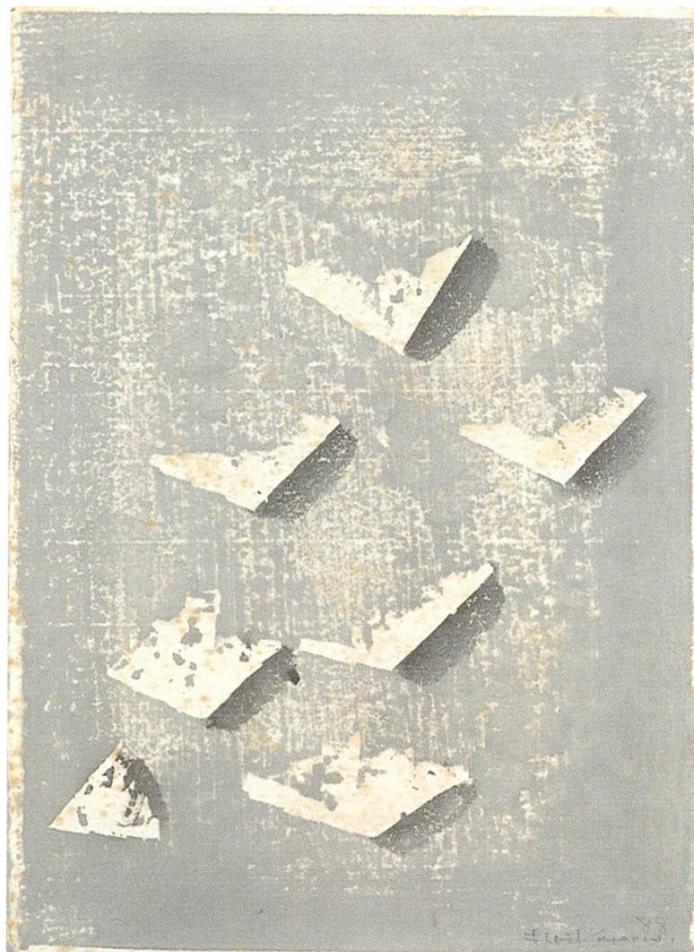
2016 年 1 月 5 日(火)～2 月 14 日(日)

「*Present for You* — 2015 年度 新収蔵作品展 わたしからあなたへ／みんなから未来へ」とは、当館に収蔵される作品が、貴重な文化遺産として大切に保管され、未来へと伝えるべきものであり、同時に市民ひとりひとりから未来へのプレゼントでもあるという気持ちをこめたタイトルです。

本展では 2015 年上半期に新たに当館に収蔵された 1,068 点の作品のなかから、主な作品約 80 点をご紹介します。本展を通じて、当館の活動がさまざまな人々によって支えられ、市民ひとりひとりも美術館のサポーターであるということをご理解いただければ幸いです。

当館は今後も、古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できる質の高いコレクションの形成を目指して、継続して収集活動につとめていきたいと考えています。

最後になりましたが、貴重な作品や資料をご寄贈くださいました皆様、収集活動にご協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。



木村希八「渡り鳥」1988 木版(多色)

2016 年 1 月

町田市立国際版画美術館

※作家・作品データは展示順に掲載しています。

※各データは次の順で記載しています。

作者名、生没年、解説、題名、制作年、技法、寸法(mm)

※作家名(ローマ字)については、姓を大文字で表記しています。

## 木村希八コレクション

本年度、版画の刷師を本業としつつ作家としても活動し、現代美術のコレクターでもあった木村希八旧蔵の作品群がご遺族の木村太陽氏から寄贈されました。その内訳は木村希八作品 398 点、日本・西洋の現代作家の作品 469 点、現代作家の銅版画原版 60 点です。本新収蔵作品展でその一部をご紹介します。

## 木村希八(1934-2014)

### KIMURA Kihachi

木村希八は新潟県南魚沼郡に生まれ、上京後 1950 年代はじめに絵を描き始め、さらに版画に興味を持って木版画、モノタイプ、ステンシル版画などの制作を試みています。1956 年にリトグラフの制作を開始し、翌年に鎌倉・材木座に石版画工房を開設、刷りの仕事を始めました。その後アートクラブ版画工房や日本美術家連盟が設立した JAA 版画工房でリトグラフを担当しました。また 1970 年フジ美術版画工房の設立に参加しています。1983 年、鎌倉山崎の自宅に版画工房を再開させ、以後刷りの仕事をこの工房で行いました。こうした刷師の仕事の一方で、1966 年に画廊で個展を開催して以降、74 年、75 年、77 年、78 年、80 年、83 年、89 年、90 年、94 年、95 年、97 年、99 年、2000 年、01 年～07 年に自作作品による個展を開催し、作家としても活動しました。

### 車で遊ぶ

1959 リトグラフ(多色) 360×510 mm

### 酔った女

1963 銅版、手彩色 179×139 mm

### 渡り鳥

1988 木版(多色) 414×293 mm

### 流水

1999 リトグラフ(多色) 344×252 mm

### 浮遊

1958 染料、綿布 184×137 mm

### 歌を奏でる鳥

1960 コラージュ 108×131 mm

### 踊る女(7月11日)

1976 岩絵の具 230×168 mm

### 無題 03-8-31

2003 鉛筆、フロッタージュ 225×148 mm

## 山口源(1896-1976)

### YAMAGUCHI Gen

静岡県生まれ。1914 年、両親とともに台湾に移り住み、父親の仕事を手伝います。病にかかり療養のために滞在した温泉で版画家の藤森静雄と出会いました。1921 年、西田天香が京都で主宰した「一燈園」(1905 年創設)で奉仕活動をおこないながら精神修養に努め、まもなく藤森の紹介で創作版画のリーダーであった恩地孝四郎と知り合い、門弟となって版画制作に集中しました。戦前は風景や静物などをモチーフに具象木版を制作しましたが、戦後は、出品作品のような、師である恩地の作風を継承・展開させた抽象版画を制作しました。

### 晩秋の詩

1960 木版(多色) 377×260 mm

### コンポジション

1967 木版(多色) 459×349 mm

### 寂寂

1958 木版(多色) 840×458 mm

### 再生 REGENERATION

制作年不詳 木版(多色) 840×455 mm

## 北川民次(1894-1989)

### KITAGAWA Tamiji

静岡県生まれ。1914年から21年までニューヨークのアート・ステューデント・リーグに学びます。国吉康雄はそのときの学友でした。1923年にメキシコに渡り再び美術学校で学んだ後、オロスコやシケイロスといった革命期のメキシコの画家と交流しながら制作しました。また1931年に野外美術学校の校長となり、教育者としても力を注ぎました。1936年帰国し、二科の画家として出品をつづける一方で、瀬戸の高等女学校などの教師を勤め、さらに児童美術研究にたずさわるなど美術教育に熱心に取り組みました。メキシコ時代から版画を制作し、多数の作品を残しています。展示のリトグラフは、メキシコ在住時代の記憶を戦後に版画におこした生命力あふれる作品です。

魚を売る女

1962 リトグラフ(多色) 475×666 mm

## 瑛九(1911-1960)

### Eikyu

現在の宮崎市生まれ。本名、杉田秀夫。1920年代後半から美術評論を執筆し、1930年代には写真雑誌に写真批評を寄せつつフォトグラム(写真機を使わず、露光時間の差によって印画紙に像を焼き付けた作品)を発表しました。また油彩画を制作し、1936年頃から「瑛九」を名乗ります。1937年に自由美術家協会を結成し、展覧会に抽象の写真や油彩画を出品しました。戦後1951年に若手の作家らと「デモクラート美術家協会」を結成、既成の画壇や美術団体の権威主義を否定して一切の公募団体への出品を拒否することを指針としながら、自由と独立の精神によって民主的に会を運営しつつ創作活動しました。その時代に出品作品のような抽象とも具象ともいえないリトグラフやエッチングを多数制作しています。

春の風

1957 リトグラフ(多色) 460×302 mm

離陸

1957 リトグラフ(多色) 440×284 mm

## 鬮嘔(1931 生まれ)

### Ay-o

茨城県生まれ。本名、飯島孝雄。1953年、東京教育大学在学中に瑛九主宰の「デモクラート美術家協会」の活動に参加し、前衛美術家として活動を開始します。その時期より積極的にリトグラフを制作しました。出品作品は初期の代表作で、フェルナン・レジェの影響が顕著に見られます。1958年に渡米し、以後はニューヨークと日本を拠点に活動しました。1962年には10ヶ国近い国籍の作家が集合した「フルクサス」という前衛芸術家グループに参加し、国際的な活動を展開しました。光のスペクトルである虹色の作品を制作し「虹の画家」として知られています。

鉄骨

1957 リトグラフ(多色) 541×396 mm

ジャイアンツ

1957 リトグラフ(多色) 554×404 mm

## 池田満寿夫(1934-1997)

### IKEDA Masuo

旧満洲奉天市に生まれ、1945年父の郷里である長野市に引揚げます。1952年上京後美術を学び、1955年に鬮嘔らとグループ「実在者」を結成して前衛美術を志します。また1956年に瑛九らのデモクラート美術家協会に参加、瑛九のすすめで色彩銅版画の制作を始めました。1960年の第2回東京国際版画ビエンナーレで受賞し注目を集め、その後の第3回、第4回の同ビエンナーレでも連続受賞し評価を固めていきます。1966年にはヴェネツィア・ビエンナーレで版画大賞を受賞し、国際的評価を確立させました。また1977年には小説『エーゲ海に捧ぐ』で芥川賞を受賞、映画制作を手がけるなど幅広い分野で活動しました。陶芸も多数制作しています。

色の中の婦人

1960 ドライポイント、アクアチント(多色)

185×160 mm

ペーパーヴィナス

1985 エッチング、ドライポイント、アクアチント(多色)  
365×300 mm

### 片岡球子(1905-2008)

#### KATAOKA Tamako

北海道札幌市生まれ。1926年に女子美術専門学校(現在の女子美術大学)日本画科を卒業後、1955年まで横浜の市立小学校で教師をしつつ日本画の制作を続けました。1930年、日本美術院展に初入選、その後院展を拠点に日本画家として活動します。戦後1946年から52年までの日本美術院展で繰り返し受賞し、1956年には芸術選奨文部大臣賞を受賞しています。女子美術大学と愛知県立芸術大学で教授をつとめてもいます。鮮やかな色彩と力強く大胆な線によるダイナミックな作風の日本画を描き、1954年より制作を開始した版画でも同様の作品をリトグラフで制作しました。出品作品は木村希八刷りです。

芦ノ湖の富士

1972 リトグラフ(多色) 361×520 mm

冬(版画集『富士四題』より)

1975 リトグラフ(多色) 360×483 mm

すすきと富士

1978 リトグラフ(多色) 540×377 mm

### 脇田和(1908-2005)

#### WAKITA Kazu

東京生まれ。1923年にベルリンに渡り、ベルリン国立美術学校で油彩画、版画などを学び、1930年に帰国してからは「光風会」をはじめさまざまな展覧会に出品します。その後、1936年に猪熊弦一郎や小磯良平らと「新制作派協会」を結成し、発表拠点としました。鳥や人物などのモチーフを独自のかたちで表現し、独創的な作風の油彩画を制作しました。ベルリン留学時代から版画を制作し、戦後も多数のリトグラフを制作しています。東京藝術大学の教授をつとめました。

鳥を集める少年

1960 リトグラフ(多色) 380×281 mm

作品名不詳

制作年不詳 リトグラフ(多色) 345×487 mm

鳥飼い

1974 リトグラフ(多色) 612×441 mm

餌つけする女

1973 リトグラフ(多色) 390×550 mm

### 草間弥生(1929 生まれ)

#### KUSAMA Yayoi

長野県松本市生まれ。1957年にアメリカに渡り、「無限の網」をテーマにしたモノクローム絵画、家具やボートの表面を布製の突起物でおおった「ソフト・スカルプチュア」の作者として一躍評価を受けました。また、1960年代のインスタレーションやパフォーマンスの先駆的活動によって、その存在が大きく知られるようになります。1973年に帰国し、その後も国際的な芸術家として活躍し、注目されてきました。版画制作は1979年から始め、200点ほど制作しています。出品作品は、木村希八が刷った銅版画です。

春

1995 エッチング 218×343 mm

芽

1995 エッチング 342×221 mm

記念撮影

1995 エッチング 295×220 mm

### 金子國義(1936-2015)

#### KANEKO Kuniyoshi

埼玉県蕨市出身の美術家。1959年に日本大学芸術学部を卒業し、1964年より独学で油絵制作を開始。澁澤龍彦をはじめとした多くの文化人と交流し、彼らの携わった書籍や雑誌の装幀・挿絵、舞台・宣伝美

術などを手がけたことでも知られています。退廃的なエロス漂う作風が有名ですが、洒脱さと可愛らしさにあふれた作品も魅力的です。出品作は後者の雰囲気なたたえたリトグラフ作品です。

王女に扮したアリス

1993 リトグラフ 167×91 mm

お支度

1993 リトグラフ 325×204 mm

鳥の三女神

1993 リトグラフ 472×408 mm

舞踏会のアリス

制作年不詳 リトグラフ 434×353 mm

### 磯見輝夫(1941 生まれ)

#### ISOMI Teruo

神奈川県鎌倉市出身の版画家。1966年に東京藝術大学油画科を卒業。1973年に同大大学院版画科を修了。現在、武蔵野美術大学客員教授。1979年に第47回日本版画協会展・協会賞、2003年に山口源大賞、2007年に名古屋市芸術特賞を受賞。国内外の個展・グループ展、美術館での展覧会に数多く出品。木目や彫りの力強さを活かしつつ、自然の様子や内在する力を人物像によって象徴的にあらわした木版画を制作しています。

月明

1980 木版 448×710 mm

地—Ⅲ

1980 木版 448×710 mm

### ジョゼッペ・カポグロッシ(1900–1972)

#### Giuseppe CAPOGROSSI

ローマ生まれのイタリアの美術家。母国で絵画を学んだ後、1927年から1933年までパリに滞在して色彩や色調の研究に取り組みました。この間 1930年の

第17回ヴェネツィア・ビエンナーレ展に出品します。1950年には第25回展に出品、その翌年、グループ「オリジネ」を結成しました。この頃から彼の作品は記号のような独特の形を連続的に繰り返す構成へと変化します。1954年の第27回ヴェネツィア・ビエンナーレ展でエイナウディ賞を受賞、1962年の第31回展ではモルロッチェと大賞を分け合いました。版画との出会いは1944年のことで、主にリトグラフを制作して1960年、1962年、1966年の東京国際版画ビエンナーレ展に出品しました。

コンポジション

1965 リトグラフ(多色) 507×363 mm

### アンス・アルトウング(1904–1989)

#### Hans HARTUNG

ライプツィヒ生まれのドイツの美術家。ライプツィヒの大学で哲学と美術史を学んでレンブラント、ロヴィス・コリント、ココシュカ、ノルデらに興味を持ち、デザイン学校で制作を学びました。1926年にドレスデンで展示されたフランスとスペインの現代作品に深い感銘を受けてパリへ移ります。1928年にはミュンヘンで絵画技法を学び、1931年にドレスデンで個展を開催しました。ナチスが台頭するとドイツへ戻らず、フランスを活動の場とします。彼の作品はアメリカ合衆国の1960年代、70年代の美術に大きな影響を与えたことでも知られます。

無題

1963 リトグラフ 530×426 mm

無題

制作年不詳 エッチング(多色) 115×280 mm

### アントニ・クラヴァエ(1913–2005)

#### Antoni CLAVE

バルセロナ生まれのスペインの美術家。1939年以降は主にフランスで活動し、絵画、版画、彫刻、舞台美術、衣装デザインなどの多彩な制作を繰り返します。ヴュイヤール、ボナール、スーティン、ルオーらの絵

画に影響を受けましたが、友人であるカタロニアの美術家に勧められて 1939 年からリトグラフを手掛けました。初期の作品は具象的だったものの、後に重厚で大胆な抽象へと変貌します。1965 年にエッチングの技法も習得して、以後は銅版画の制作も行いました。

静物

1955 リトグラフ(多色) 525×715 mm

赤一黒

1964 リトグラフ(多色) 475×695 mm

### ピエール・アレシンスキー(1927 年生まれ)

#### Pierre ALECHINSKY

ブリュッセル生まれのベルギーの美術家。両親が医者という家庭に育ちましたが、美術家をこころざしてブリュッセルの美術学校で学びました。1948 年にパリのマール・グロッセ画廊でグループ展に参加し、その後はカレル・アペルらが率いる美術グループ「コブラ」の最年少メンバーとして活躍します。1951 年にパリへ移転し、翌年にはヘイターの版画工房「アトリエ 17」で銅版画技法を習得、以後は好んで版画を制作し続けました。日本の前衛書道家・森田子龍と交流し、1955 年には来日して映画『日本の書』を共同制作しました。自由闊達な筆の動きに影響を受けた具象とも抽象ともつかない独自の作風が特徴です。

無題

制作年不詳 エッチング、リトグラフ(多色)

1012×645 mm

木に沿って

1973 木版 506×600 mm

### ヤン・フォス(1936 年生まれ)

#### Jan VOSS

ハンブルク生まれのドイツの画家。ミュンヘンの美術学校で学んだ後、1960 年にパリへ移転し、制作の拠点とします。1963 年にはドイツのマインツで初めて個

展を開催、その後はパリ、コペンハーゲン、ニューヨークなどの世界各地で個展を開催しました。1978 年にパリ国立近代美術館で回顧展を開催しました。1972 年の東京国立近代美術館「ドイツ現代美術展」では、出品に合わせて来日したほか、1985 年から 1992 年には銀座の佐谷画廊で個展が開催されました。

無題

1988 エッチング、アクアチント(多色) 127×100 mm

無題

1984 エッチング、アクアチント(多色) 177×140 mm

無題

1983 エッチング、アクアチント(多色) 240×179 mm

無題

1988 エッチング、アクアチント 397×544 mm

以上が木村希八コレクションです。

.....  
◇以下の寄贈作品につきましては、ご寄贈者様のお名前を各項目ごとに記載させていただきました。

### 森口宏一(1930-2011)

#### MORIGUCHI Koichi

大阪府生まれ。大阪を拠点に 1950 年代より本格的に創作活動を始め、当初は油彩画を制作していましたが、次第にアクリル板やアルミニウム板、ポリエステル樹脂、ステンレススチールなどを用いたレリーフ的な作品の制作へと移行し、1966 年からは立体作品を手がけました。出品作品は、この時期に制作された、スクリーンプリントで刷ったアクリル板を、隙間を空けながら層状に重ねた作品です。1990 年代から晩年にかけては「私」、「生」、「死」をテーマに作品を制作しました。

ニュースペーパーより

1967 スクリーンプリント、アクリル板、ステンレススチール、他 950×647×112 mm

ニューズペーパーより

1967 スクリーンプリント、アクリル板、ステンレススチール、他 900×770×140 mm

解剖図より

1967 スクリーンプリント、アクリル板、ステンレススチール、他 850×380×104 mm

ニューヨーク B

1972 スクリーンプリント、アクリル板、ステンレススチール、他 606×530×103 mm

森口まどか氏・森口ゆたか氏より寄贈

### 平野貴久子(1938-1966)

#### HIRANO Kikuko

浜松市生まれ。東京学芸大学で美術を学び、卒業後都内のミッションスクールに勤務します。その一方で1961年頃に版画家・版画研究者の小野忠重に会い、小野を中心に「版の会」を結成、師事しつつ版画制作に精力を傾けました。1964年、日本中国版画交流展に推挙され出品、その後千葉県足立学園に勤務しながら房総の海辺の働く人々や子どもの生活に取材した版画を制作しました。小野の作品に共鳴し、社会性のある版画を制作しました。

二人(女たち)

1964 木版(多色) 450×240 mm

屈

1964 木版(多色) 400×300 mm

おおう人(手)

1964 木版 650×450 mm

平松周子氏より寄贈

### ガストン・プチ(1930年生まれ)

#### Gaston PETIT

カナダ、ケベック州出身の聖ドミニコ渋谷カトリック教会の神父。1961年、初来日、神父をつとめる教会のほか、清泉女学院小聖堂(鎌倉)、旅の聖母教会(奈良県)などのステンドグラスを制作。1965年、東京渋谷にアトリエを構えます。国内外の画廊のほか、伊東・池田20世紀美術館(1978年)、渋谷区立松涛美術館(1989年)で個展を開催。絹やテロン(ポリエステル)の代わりにカーテン生地を使って、筆で描いたような荒く厚みのある独創的なマティエールの、抽象のスクリーンプリントを制作しています

詩画集『傷跡』全10点

(詩:ポール・アンリ・ジラルール)

1980 スクリーンプリント(多色)

各 c.350×150mm(イメージ) 各 420×520 mm(紙)

ガストン・プチ氏より寄贈

### 平塚運一(1895-1997)

#### HIRATSUKA Un'ichi

島根県松江市出身。初期には木口木版や多色摺木版を手がけていましたが、のちに白黒を主体とした単色版画に独自の境地を開いていきました。出品作品は、バレンと彫刻刀の図に「彫り上げていざ摺らんかな 初摺のこの嬉しさを誰にか語らむ」という歌をそえた1954年の作。平塚はこの歌のことを自身の「モットー」であると語っており、自画像的作品として知られています。

彫り上げて・・・(歌)

1954 木版 375×511 mm

相原尚夫氏より寄贈

## 泉茂(1922-1995)

### IZUMI Shigeru

大阪市生まれ。大阪市立工芸学校工芸図案科を経て、百貨店勤務のかたわら油彩画や水彩画の制作活動を開始。1953年に瑛九と久保貞次郎の勧めでエッチングを、1955年には石版画を始めます。1957年には第1回東京国際版画ビエンナーレ展で新人奨励賞を受賞。1959年にニューヨークへ、1963年にはパリへ移り住んで制作・発表を続け、帰国後の1970年には大阪芸術大学の教授に就任。後進の育成に務めるかたわら、数々の個展を開催し、関西美術界の発展に貢献しました。リンゴや蛾など身近なモチーフを主題とした初期の作品から、渡米し抽象的な形態を扱うようになった中期の作、版表現の可能性を模索した後期の作品までをご紹介します。

#### 相愛

1954 エッチング、アクアチント 373×235mm

#### 待機

1954 エッチング、アクアチント 348×416mm

#### なまけもの

1956 リトグラフ(多色) 562×378mm

#### 池

1960 リトグラフ 511×663mm

#### 層

1961 エッチング 500×656mm

#### WAVE

1962 リトグラフ(多色) 564×762mm

#### 点と線のシリーズ 7

1978 シルクスクリーン 764×566mm

#### 点と線のシリーズ 8

1978 シルクスクリーン 757×563mm

泉照子氏より寄贈

## 小川一衛(1936-2010)

### OGAWA Kazuei

群馬県桐生市出身。東京藝術大学工芸科図案計画専攻を卒業、広告やデザイン分野で活躍、1968年からは女子美術大学でデザインを教えました。1976年頃から、美しい色彩の多色刷リトグラフを中心に版画制作に取り組むかたわら、干支や言葉遊びをテーマにしたユーモアあふれる立体作品を制作しました。この作品に描かれているのは、丸と四角の二つのメロン。2007年、愛知の農業高校が開発した、型にはめて育てる四角いメロンが話題になりましたが、小川はこのニュースを見たのでしょうか。それぞれの背景と印章も丸と四角でデザインされ、作者の遊び心がよく表れた作品です。

#### 二つのメロン

2008 木版(多色) 260×555mm

小川弘子・晋氏より寄贈

## 蒲地 清爾(1948年生まれ)

### KAMACHI Seiji

1948年 佐賀県生まれ。1960年代半ばにドローイングによるイラストレーションをはじめます。1970年代初めより銅版画に取り組み、日本版画協会会員として出品を続けるとともに、銅夢版画工房を主宰し後進の指導にあたっています。エロティックで幻想的な独自の世界を細密な銅版画に表現し、蔵書票の分野でも国際的に活躍しています。

#### 妄想的世界構造論

1980 エッチング、アクアチント 420×525mm

藤田俊夫氏より寄贈

#### 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-28-1

<http://hanga-museum.jp/>

2016年1月5日発行

この冊子は3000部作成し、1部あたりの単価は40円です。(職員人件費を含みます。)